

# 半導体漫遊記

23

## 湯之上隆

9月の中旬、原発事故で一躍有名になった南相馬市を訪れた。上野からスーパーひたちに乗って、いわき駅まで行く。これより北は震災以降、不通となっている。いわきでレンタカーを借りた。常磐自動車道も不通、県道は封鎖されているため、山道をくねくねと4時間もドライブした。結局、埼玉の自宅から8時間以上もかかってしまった。何と遠いことか。南相馬市は陸の孤島と化している。

その日、たまたま、南相馬市の原ノ町商工

会場で、参考人として「放射線の健康への

影響」を説明し、「国は一体何をやっているのか」と15分間、怒りをぶちまけた方である。その児玉教授は、南相馬市の講演会でも「国は全くあてにならない」、「健康被害を最小限にするために除

民が自発的に行うべきか」

「国は」という発言に会場も相次いだ。その一例は、

### 避難準備区 域指定解除 南相馬市民の疑念

## モルモットにされてる？

「だ」と言うに至って、児玉先生「えー相馬市の市議、商工会議所職員、および市民限定活用すべきだ」と、ろん、筆者の頭の周り全身で怒っていた。それを「?????」と、はて

「それはおかしい。福島原発の敷地内では、家一軒の除染が相次いだ。児玉教授が出されたという報道があったじゃないですか」



南相馬市民の質問にたじたじとなる児玉龍彦教授(中央)＝南相馬市の原ノ町商工会議所で

「国は、南相馬市などに対して、食物の「地産地消」を進めているという。また、厚生省は、各研究機関に、「被災者に対して必要以上に詳細な調査・研究を行わないように」と通達している。そして、9月30日、除染がほとんど進んでいないのに、緊急時避難準備区域の指定が解除された。このようない連の出来事からも、「モルモットにされている」と疑っている南相馬市民の気持ちがよく分かる。

もし「モルモット」が事実とすれば、日本は中国も北朝鮮も非難できない。民主主義の法治国家ではあってはならないことである。(半導体技術者・社会学者)